令和６年度　食の安全に関するアンケート調査結果

調査方法

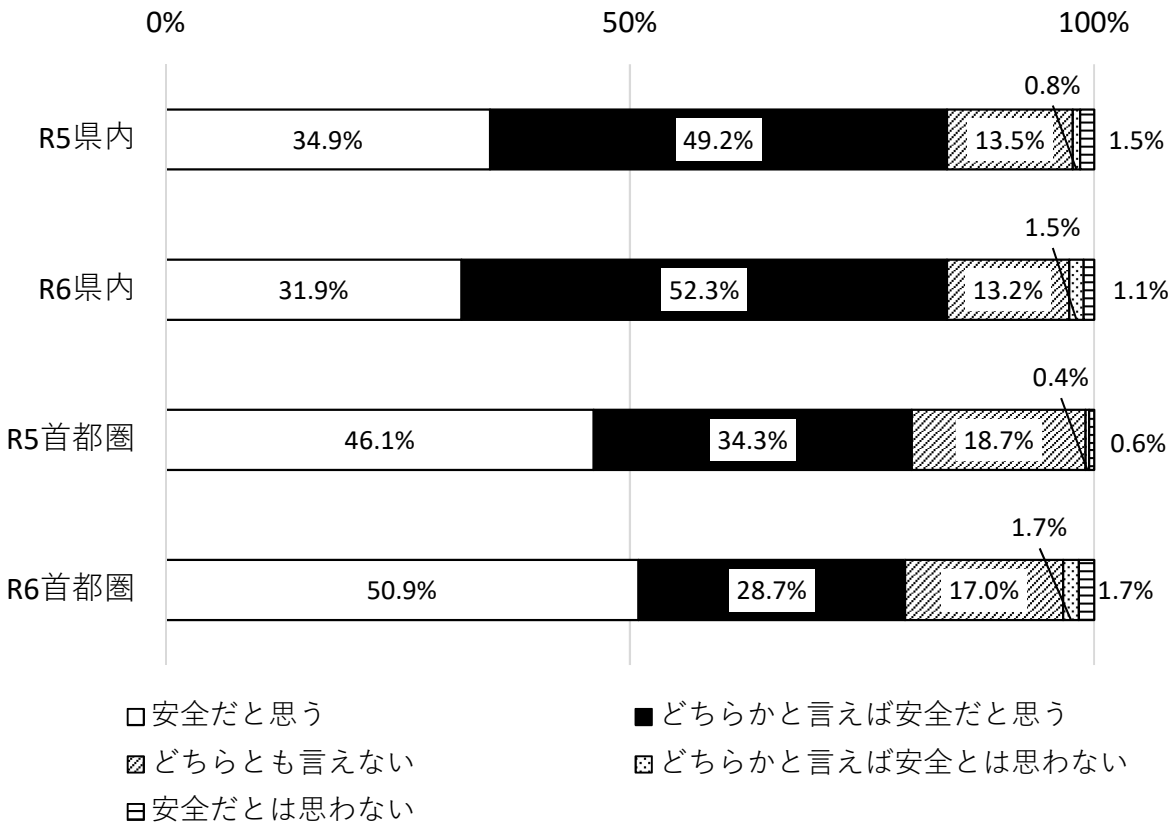
	県内	首都圏
調査時期	令和６年９月24日～９月26日	
調査方法	インターネットによる調査 （民間のリサーチ会社に依頼）	
調査対象者	新潟県内に在住する 20～60代の男女	東京都、千葉県、埼玉県、 神奈川県内に在住する 20～60代の男女
回答者数	524人	540人

調査対象者の構成

	県　　内		首　都　圏	
	男性	女性	男性	女性
20代	38人	36人	47人	45人
30代	50人	47人	57人	54人
40代	57人	54人	67人	64人
50代	54人	53人	50人	49人
60代	67人	68人	52人	55人

問１　あなたは新潟県内で生産・加工・製造された食品の安全性について、どのように感じていますか。（ひとつだけ）

		県内						首都圏					
		Ｒ５年度			Ｒ６年度			Ｒ５年度			Ｒ６年度		
		件数	%		件数	%		件数	%		件数	%	
1	安全だと思う	183	34.9%	84.2%	167	31.9%	84.2%	249	46.1%	80.4%	275	50.9%	79.6%
2	どちらかと言えば安全だと思う	258	49.2%		274	52.3%		185	34.3%		155	28.7%	
3	どちらとも言えない	71		13.5%	69		13.2%	101		18.7%	92		17.0%
4	どちらかと言えば安全とは思わない	4	0.8%	2.3%	8	1.5%	2.6%	2	0.4%	0.9%	9	1.7%	3.4%
5	安全だとは思わない	8	1.5%		6	1.1%		3	0.6%		9	1.7%	
	回答者数	524			524			540			540		

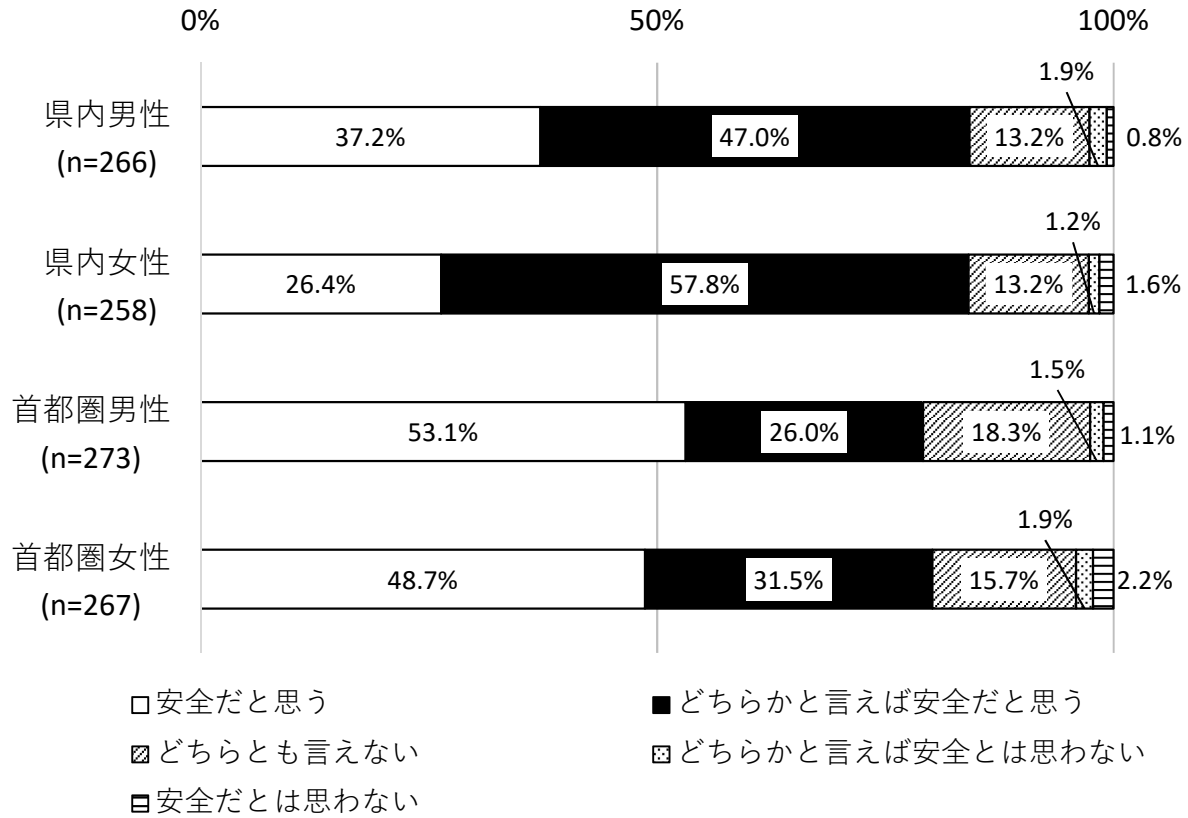


県内における「安全だと思う」又は「どちらかと言えば安全だと思う」と回答した割合の合計は84.2%（前年度比±0ポイント）であった。

首都圏における「安全だと思う」又は「どちらかと言えば安全だと思う」と回答した割合の合計は79.6%（前年度比－0.8ポイント）であった。

問１　あなたは新潟県内で生産・加工・製造された食品の安全性について、どのように感じていますか。（ひとつだけ）

男女別（R6年度）



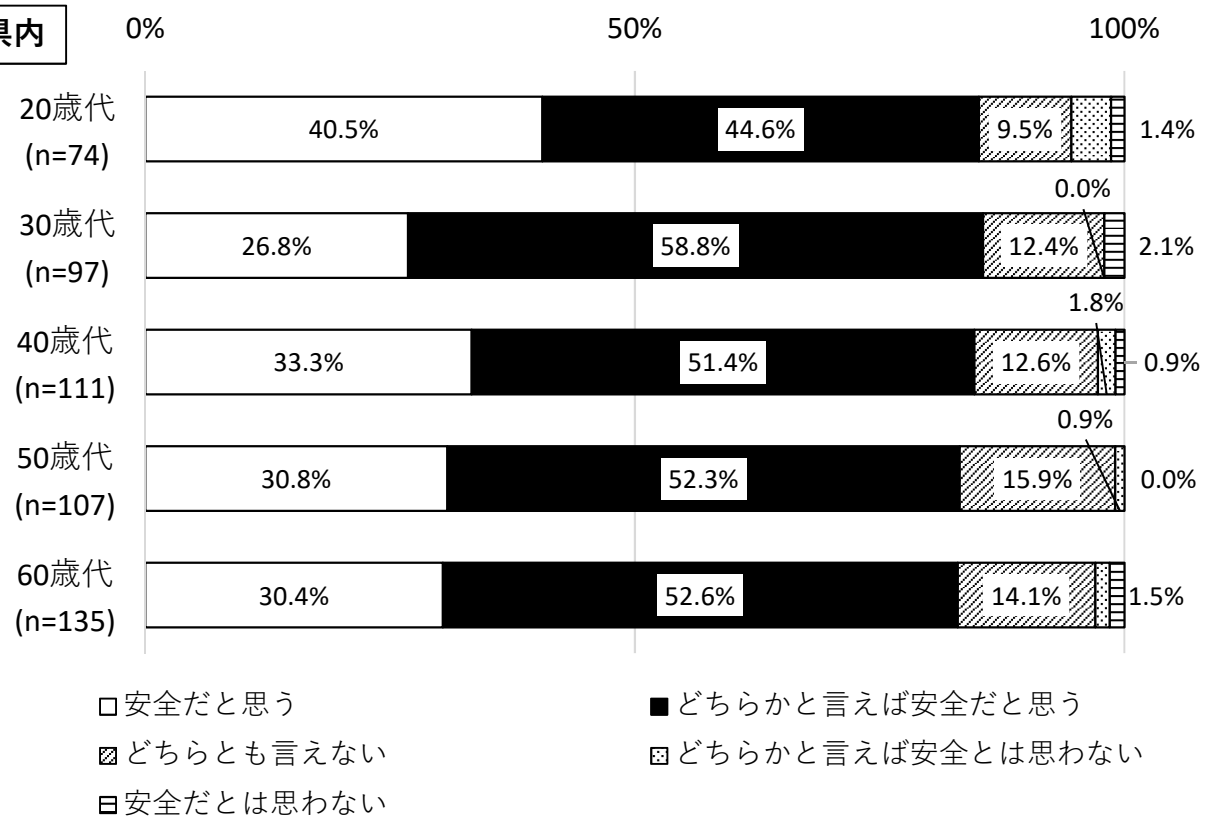
県内男女別における「安全だと思う」又は「どちらかと言えば安全だと思う」と回答した割合の合計は、男性、女性ともに84.2%であった。

首都圏男女別における「安全だと思う」又は「どちらかと言えば安全だと思う」と回答した割合の合計は、男性で79.1%、女性で80.2%であった。

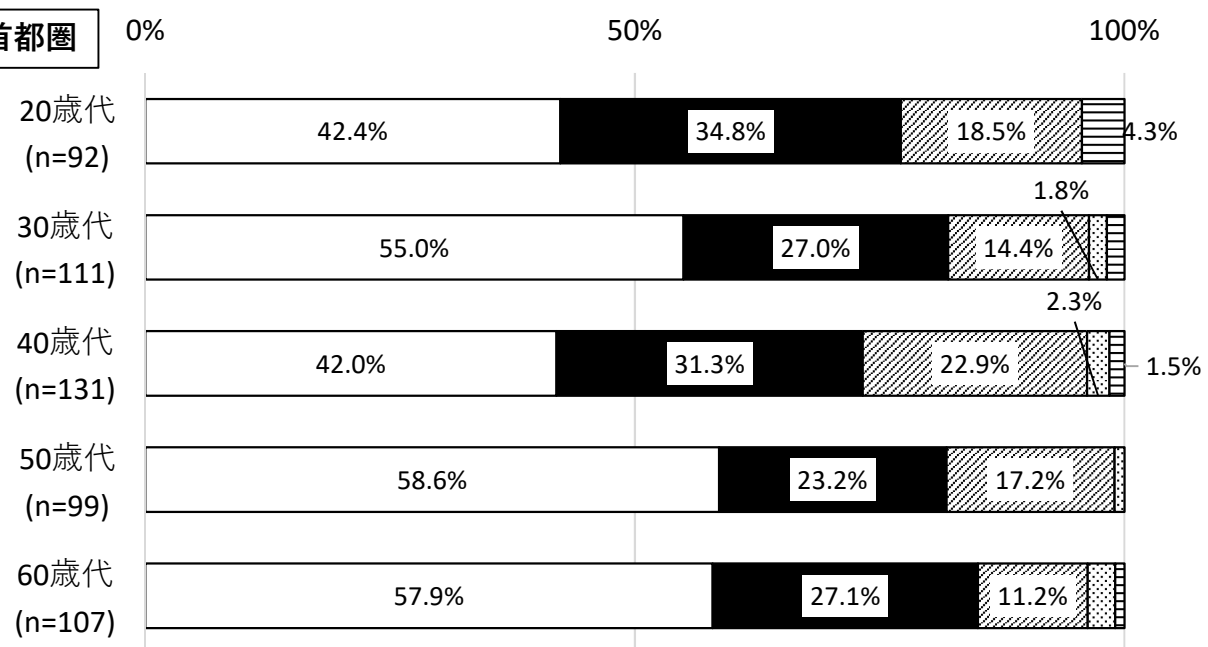
問１　あなたは新潟県内で生産・加工・製造された食品の安全性について、どのように感じていますか。（ひとつだけ）

年代別（R6年度）

県内



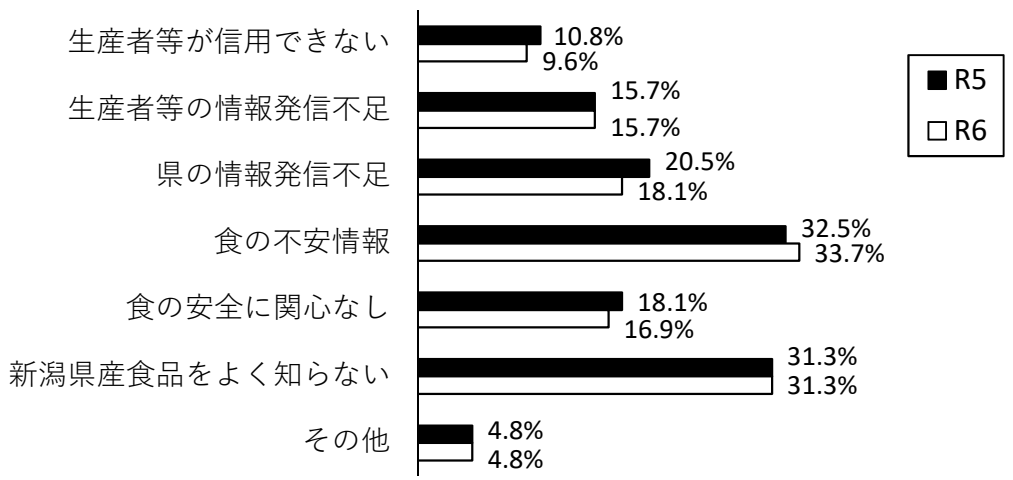
首都圏



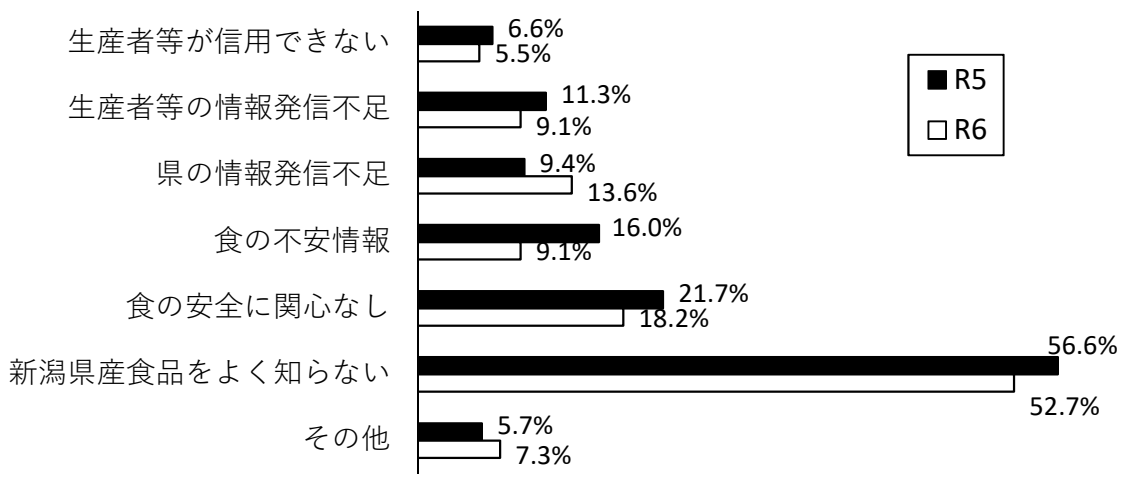
問２　問１で「３　どちらとも言えない」「４　どちらかと言えば安全とは思わない」「５　安全とは思わない」と回答した理由で、あてはまるものはどれですか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ５年度			Ｒ６年度			Ｒ５年度			Ｒ６年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	生産者や製造業者が信用できないから	9	10.8%	6	8	9.6%	6	7	6.6%	6	6	5.5%	7
2	生産者や製造業者からの食の安全に関する情報発信が不足しているから	13	15.7%	**5**	13	15.7%	**5**	12	11.3%	**4**	10	9.1%	**4**
3	県からの食の安全に関する情報発信が不足しているから	17	20.5%	**3**	15	18.1%	**3**	10	9.4%	**5**	15	13.6%	**3**
4	食に関する不安な報道を耳にするから	27	32.5%	**1**	28	33.7%	**1**	17	16.0%	**3**	10	9.1%	**4**
5	食品の安全性について、普段あまり関心がないから	15	18.1%	**4**	14	16.9%	**4**	23	21.7%	**2**	20	18.2%	**2**
6	新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから	26	31.3%	**2**	26	31.3%	**2**	60	56.6%	**1**	58	52.7%	**1**
7	その他	4	4.8%	7	4	4.8%	7	6	5.7%	7	8	7.3%	6
	回答者数	112			83			106			110		

県内



首都圏



問２　問１で「３　どちらとも言えない」「４　どちらかと言えば安全とは思わない」「５　安全とは思わない」と回答した理由で、あてはまるものはどれですか。（いくつでも）

「7 その他」の回答内容（複数回答があったもの）

内容	回答数
産地で一括りにできないから	4
よく知らない・なんとなく	2

県内では「食に関する不安な報道を耳にするから」と回答した割合が最も高く33.7%（前年度比＋1.2ポイント）であった。

首都圏では「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」と回答した割合が最も高く52.7%（前年度比－3.9ポイント）であった。

男女別（R6年度）

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	生産者等が信用できない	9.5%	9.8%	5.3%	5.7%
2	生産者等の情報発信不足	16.7%	14.6%	12.3%	5.7%
3	県の情報発信不足	26.2%	9.8%	14.0%	13.2%
4	食の不安情報	**38.1%**	29.3%	10.5%	7.5%
5	食の安全に関心なし	21.4%	12.2%	15.8%	20.8%
6	新潟県産食品をよく知らない	21.4%	**41.5%**	**56.1%**	**49.1%**
7	その他	0.0%	9.8%	10.5%	3.8%

県内男性では「食に関する不安な報道を耳にするから」と回答した割合が最も高く38.1%、県内女性では「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」と回答した割合が最も高く41.5%であった。

首都圏では男女ともに「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」と回答した割合が最も高く、男性で56.1%、女性で49.1%であった。

問２　問１で「３　どちらとも言えない」「４　どちらかと言えば安全とは思わない」「５　安全とは思わない」と回答した理由で、あてはまるものはどれですか。（いくつでも）

年代別（R6年度）

県内

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	生産者等が信用できない	9.1%	7.1%	17.6%	11.1%	4.3%
2	生産者等の情報発信不足	9.1%	21.4%	5.9%	11.1%	26.1%
3	県の情報発信不足	27.3%	28.6%	17.6%	22.2%	4.3%
4	食の不安情報	36.4%	**35.7%**	**52.9%**	16.7%	30.4%
5	食の安全に関心なし	18.2%	21.4%	11.8%	11.1%	21.7%
6	新潟県産食品をよく知らない	**45.5%**	**35.7%**	11.8%	**27.8%**	**39.1%**
7	その他	0.0%	0.0%	5.9%	5.6%	8.7%

首都圏

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	生産者等が信用できない	4.8%	10.0%	5.7%	5.6%	0.0%
2	生産者等の情報発信不足	0.0%	10.0%	11.4%	11.1%	12.5%
3	県の情報発信不足	9.5%	10.0%	17.1%	11.1%	18.8%
4	食の不安情報	14.3%	5.0%	8.6%	0.0%	18.8%
5	食の安全に関心なし	19.0%	20.0%	22.9%	16.7%	6.3%
6	新潟県産食品をよく知らない	**57.1%**	**50.0%**	**45.7%**	**66.7%**	**50.0%**
7	その他	4.8%	5.0%	11.4%	5.6%	6.3%

県内年代別では、 20代、50代、60代では「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」と回答した割合が最も高く、40代では「食に関する不安な報道を耳にするから」と回答した割合が最も高かった。30代では「食に関する不安な報道を耳にするから」と「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」と回答した割合が同率で最も高かった。

首都圏年代別では、いずれの年代も「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」と回答した割合が最も高かった。

問２－２　新潟県内で生産・加工・製造された食品の安全性について、問２でお答えになった理由で、そのように感じられる理由・きっかけを具体的に教えてください。

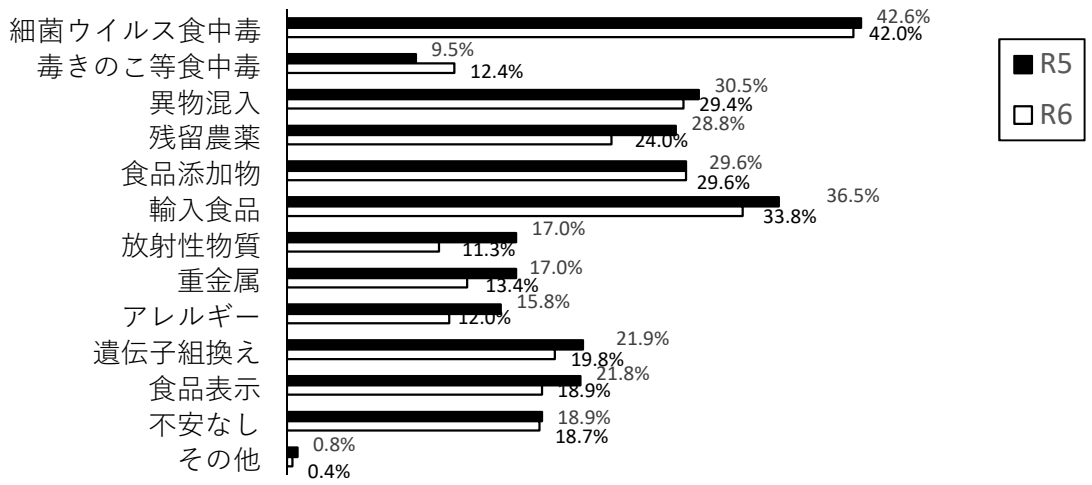
新潟県内で生産・加工・製造された食品の安全性について、回答を選んだ理由や、そのよう感じられるきっかけ（複数回答があったもの）

選択肢		理由・きっかけ（順序不同）
1	生産者等が信用できない	農薬や添加物が不安
2	生産者等の情報発信不足	情報をみかけない、産地偽装が心配
3	県の情報発信不足	情報をみかけない
4	食の不安情報	報道や動画サイトを見た
5	食の安全に関心なし	安くておいしければよい
6	新潟県産食品をよく知らない	見聞きする機会がない、普段から産地を気にしていない

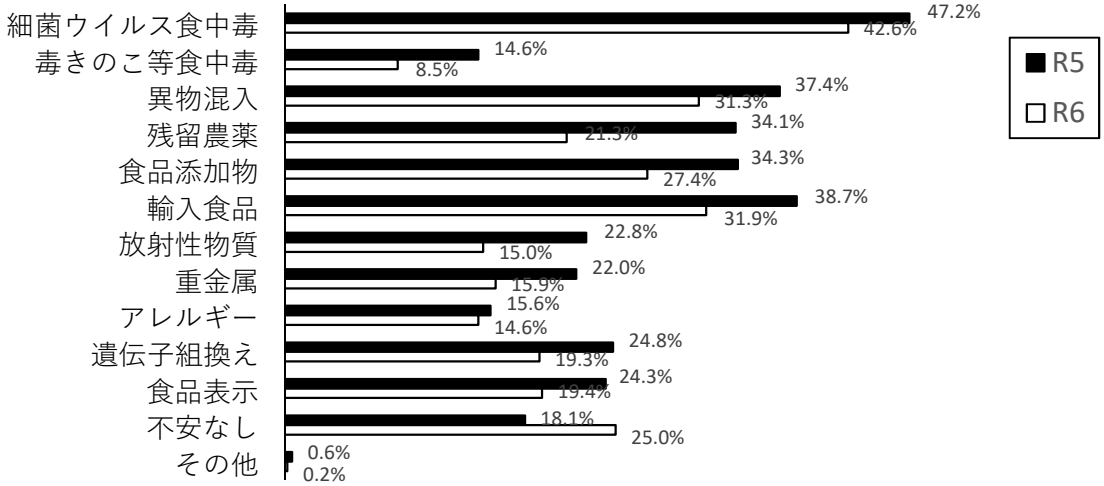
問３　あなたが、普段の食生活の中で、食の安全に関して不安を感じていることは何ですか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ５年度			Ｒ６年度			Ｒ５年度			Ｒ６年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	細菌やウイルスによる食中毒	223	42.6%	**1**	220	42.0%	**1**	255	47.2%	**1**	230	42.6%	**1**
2	毒きのこや有毒植物による食中毒	50	9.5%	12	65	12.4%	10	79	14.6%	12	46	8.5%	12
3	食品への異物混入	160	30.5%	**3**	154	29.4%	**4**	202	37.4%	**3**	169	31.3%	**3**
4	農薬の残留	151	28.8%	**5**	126	24.0%	**5**	184	34.1%	**5**	115	21.3%	6
5	食品添加物の使用	155	29.6%	**4**	155	29.6%	**3**	185	34.3%	**4**	148	27.4%	**4**
6	輸入食品の安全性	191	36.5%	**2**	177	33.8%	**2**	209	38.7%	**2**	172	31.9%	**2**
7	放射性物質による汚染	89	17.0%	9	59	11.3%	12	123	22.8%	8	81	15.0%	10
8	水銀やカドミウムなど重金属による汚染	89	17.0%	9	70	13.4%	9	119	22.0%	9	86	15.9%	9
9	食物アレルギー	83	15.8%	11	63	12.0%	11	84	15.6%	11	79	14.6%	11
10	遺伝子組換え食品の使用	115	21.9%	6	104	19.8%	6	134	24.8%	6	104	19.3%	8
11	食品の表示や宣伝に対する信頼性	114	21.8%	7	99	18.9%	7	131	24.3%	7	105	19.4%	7
12	普段の食生活で特に不安は感じていない	99	18.9%	8	98	18.7%	8	98	18.1%	10	135	25.0%	**5**
13	その他	4	0.8%	13	2	0.4%	13	3	0.6%	13	1	0.2%	13
	回答者数	524			524			540			540		

県内



首都圏



問３　あなたが、普段の食生活の中で、食の安全に関して不安を感じていることは何ですか。（いくつでも）

「13 その他」の回答内容（複数回答があったもの）

内容	回答数
消費期限や賞味期限	2

県内では「細菌やウイルスによる食中毒」と回答した割合が最も高く42.0%（前年度比－0.6ポイント）であった。

首都圏でも「細菌やウイルスによる食中毒」と回答した割合が最も高く42.6%（前年度比－4.6ポイント）であった。

男女別（R6年度）

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	細菌ウイルス食中毒	**34.6%**	**49.6%**	**37.4%**	**47.9%**
2	毒きのこ等食中毒	11.7%	13.2%	9.2%	7.9%
3	異物混入	25.9%	32.9%	33.3%	29.2%
4	残留農薬	19.9%	28.3%	16.8%	25.8%
5	食品添加物	21.4%	38.0%	19.0%	36.0%
6	輸入食品	25.2%	42.6%	23.8%	40.1%
7	放射性物質	6.4%	16.3%	13.9%	16.1%
8	重金属	9.4%	17.4%	15.0%	16.9%
9	アレルギー	10.5%	13.6%	12.8%	16.5%
10	遺伝子組換え	16.2%	23.6%	16.8%	21.7%
11	食品表示	13.5%	24.4%	16.5%	22.5%
12	不安なし	23.3%	14.0%	30.8%	19.1%
13	その他	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%

県内では男女ともに「細菌やウイルスによる食中毒」と回答した割合が最も高く、男性で34.6%、女性で49.6%であった。

首都圏でも男女ともに「細菌やウイルスによる食中毒」と回答した割合が最も高く、男性で37.4%、女性で47.9%であった。

問３　あなたが、普段の食生活の中で、食の安全に関して不安を感じていることは何ですか。（いくつでも）

年代別（R6年度）

県内

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	細菌ウイルス食中毒	**39.2%**	**48.5%**	**39.6%**	**41.1%**	41.5%
2	毒きのこ等食中毒	13.5%	14.4%	13.5%	7.5%	13.3%
3	異物混入	33.8%	40.2%	25.2%	24.3%	26.7%
4	残留農薬	12.2%	13.4%	23.4%	26.2%	37.0%
5	食品添加物	18.9%	29.9%	27.9%	21.5%	43.0%
6	輸入食品	23.0%	26.8%	29.7%	36.4%	**45.9%**
7	放射性物質	6.8%	10.3%	10.8%	12.1%	14.1%
8	重金属	8.1%	13.4%	16.2%	13.1%	14.1%
9	アレルギー	10.8%	24.7%	10.8%	2.8%	11.9%
10	遺伝子組換え	12.2%	14.4%	20.7%	21.5%	25.9%
11	食品表示	9.5%	11.3%	18.0%	20.6%	28.9%
12	不安なし	20.3%	14.4%	23.4%	16.8%	18.5%
13	その他	1.4%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%

首都圏

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	細菌ウイルス食中毒	**33.7%**	**44.1%**	**46.6%**	**44.4%**	**42.1%**
2	毒きのこ等食中毒	9.8%	7.2%	13.7%	7.1%	3.7%
3	異物混入	30.4%	38.7%	38.2%	24.2%	22.4%
4	残留農薬	14.1%	15.3%	26.0%	22.2%	27.1%
5	食品添加物	14.1%	22.5%	34.4%	30.3%	32.7%
6	輸入食品	17.4%	25.2%	41.2%	33.3%	38.3%
7	放射性物質	6.5%	15.3%	19.8%	16.2%	15.0%
8	重金属	8.7%	12.6%	22.1%	19.2%	15.0%
9	アレルギー	19.6%	17.1%	15.3%	15.2%	6.5%
10	遺伝子組換え	7.6%	14.4%	23.7%	28.3%	20.6%
11	食品表示	10.9%	14.4%	26.0%	21.2%	22.4%
12	不安なし	31.5%	27.9%	22.1%	20.2%	24.3%
13	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%

問３－２　問３でお答えになった食の安全に関して不安を感じていることついて、その理由を教えてください。

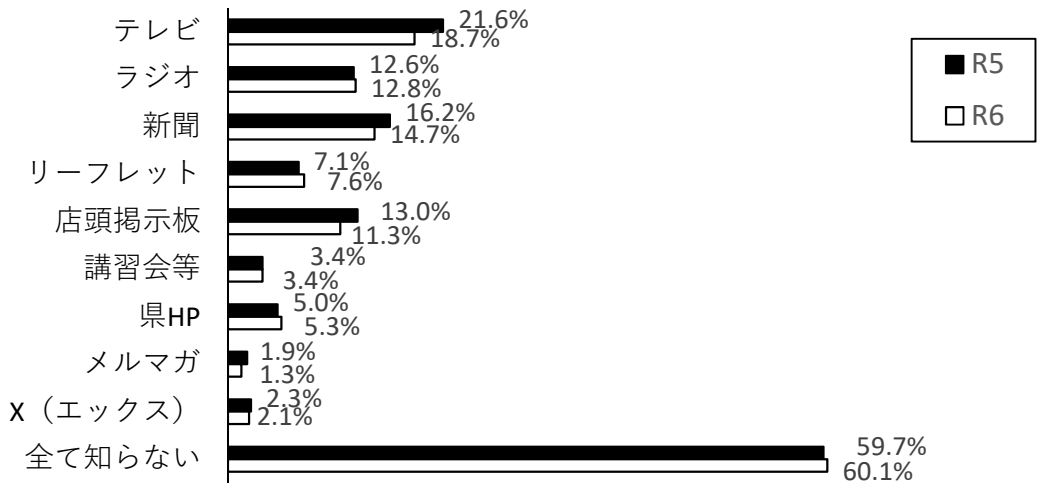
普段の食生活の中で、食の安全に関して不安を感じていることについて、
回答を選んだ理由（複数回答があったもの）

選択肢		理由・きっかけ（順序不同）
1	細菌ウイルス食中毒	自身や知人が食中毒になったから、報道で見たから、生命に関わるから、子どもがいるから　など
2	毒きのこ等食中毒	鑑別・判断が難しいから、報道で見たから、生命に関わるから　など
3	異物混入	報道で見たから、虫や動物の混入が不安、不衛生だから、危険性が高いから　など
4	残留農薬	健康への影響が不安、外国産の野菜が不安、目に見えないものだから、報道で見たから　など
5	食品添加物	発がん性が不安、子どもへの影響が心配、安全性がよく分からない、日本の規制は緩いと感じる　など
6	輸入食品	どのように生産・加工されているか分からない、海外のものは信用できない、日本と基準が違うと思う　など
7	放射性物質	目に見えないものだから、原発事故があったから　など
8	重金属	新潟水俣病があったから、報道で見たから、海洋や魚の汚染が不安　など
9	アレルギー	自身や家族にアレルギーがあるから、重症化するから　など
10	遺伝子組換え	安全性がよく分からない、将来的な影響が不安　など
11	食品表示	偽装・虚偽・誇大表示が不安、表示内容が信用できない、報道で見たから　など
12	不安なし	ー

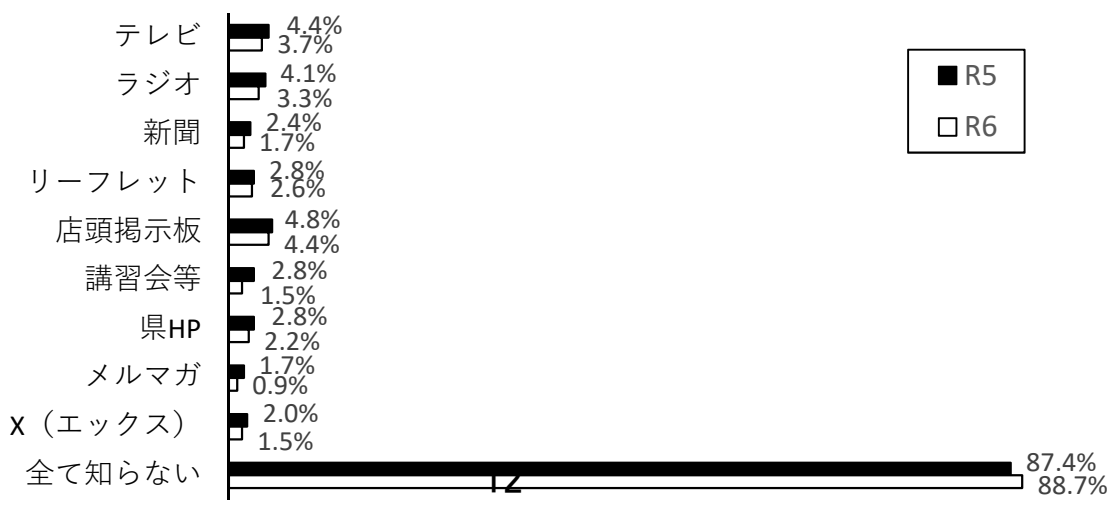
問４　新潟県では、次の方法で食の安全に関する情報を発信していますが、あなたが見聞きしたり、参加したことがあるものはありますか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ５年度			Ｒ６年度			Ｒ５年度			Ｒ６年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	県のテレビ広報番組「ほっとホット新潟」、「週刊 県政ナビ」	113	21.6%	**2**	98	18.7%	**2**	24	4.4%	**3**	20	3.7%	**3**
2	ラジオ放送やラジオCM	66	12.6%	**5**	67	12.8%	**4**	22	4.1%	**4**	18	3.3%	**4**
3	新潟日報「県からのお知らせ」欄への掲載	85	16.2%	**3**	77	14.7%	**3**	13	2.4%	8	9	1.7%	7
4	新潟県が作成したリーフレット類 （「防ごうノロウイルス食中毒」、「きのこによる食中毒に注意！」など）	37	7.1%	6	40	7.6%	6	15	2.8%	**5**	14	2.6%	**5**
5	スーパーマーケットなど食料品店での店頭掲示板「にいがた食の安全インフォメーション」	68	13.0%	**4**	59	11.3%	**5**	26	4.8%	**2**	24	4.4%	**2**
6	県内保健所が開催するイベントや講習会（手洗い講座やきのこ講習会など）	18	3.4%	8	18	3.4%	8	15	2.8%	**5**	8	1.5%	8
7	県ホームページ「にいがた食の安全インフォメーション」	26	5.0%	7	28	5.3%	7	15	2.8%	**5**	12	2.2%	6
8	メールマガジン「いただきます！にいがた食の安全・安心通信」	10	1.9%	10	7	1.3%	10	9	1.7%	10	5	0.9%	10
9	X（エックス）「にいがた食の安全」	12	2.3%	9	11	2.1%	9	11	2.0%	9	8	1.5%	8
10	いずれも知らない	313	59.7%	**1**	315	60.1%	**1**	472	87.4%	**1**	479	88.7%	**1**
	回答者数	524			524			540			540		

県内



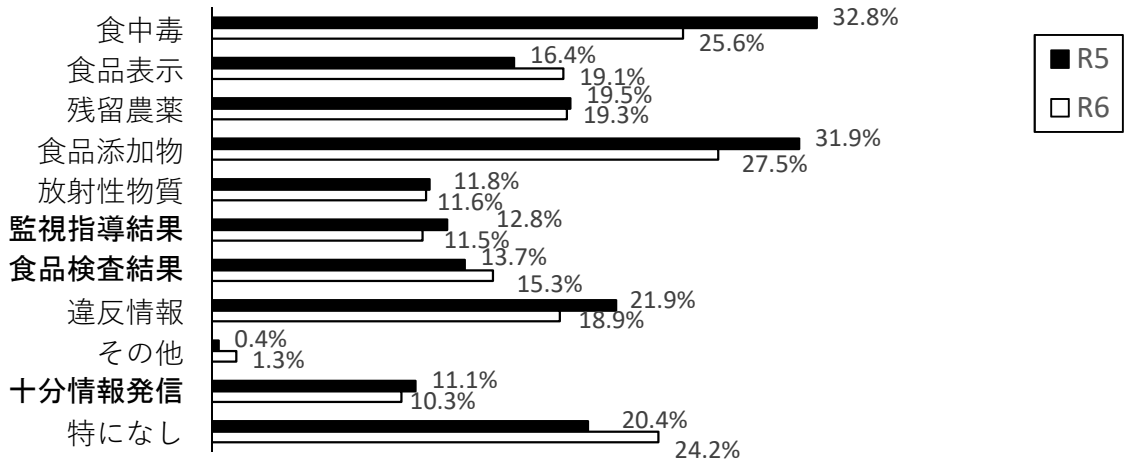
首都圏



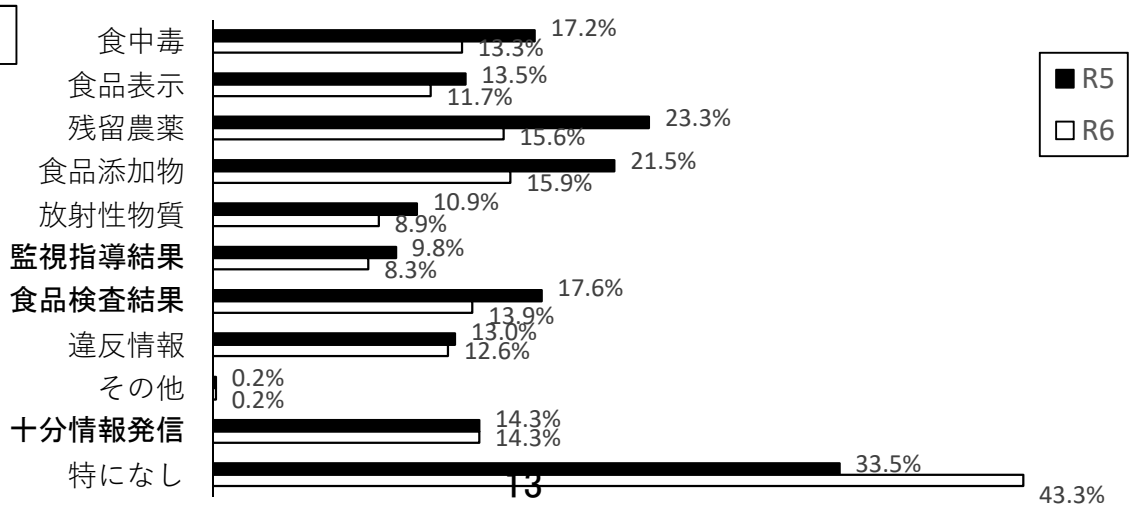
問５　新潟県では、食の安全に関する情報の発信に取り組んでいますが、あなたが新潟県から特に発信してほしい内容はどれですか。（3つまで）

		県内						首都圏					
		Ｒ５年度			Ｒ６年度			Ｒ５年度			Ｒ６年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	食中毒の種類や予防法	172	32.8%	**1**	134	25.6%	**2**	93	17.2%	**5**	72	13.3%	6
2	食品表示の見方	86	16.4%	6	100	19.1%	**5**	73	13.5%	7	63	11.7%	8
3	残留農薬の安全性	102	19.5%	**5**	101	19.3%	**4**	126	23.3%	**2**	84	15.6%	**3**
4	食品添加物の安全性	167	31.9%	**2**	144	27.5%	**1**	116	21.5%	**3**	86	15.9%	**2**
5	放射性物質に関する知識	62	11.8%	9	61	11.6%	8	59	10.9%	9	48	8.9%	9
6	事業者に対する監視指導の実施状況	67	12.8%	8	60	11.5%	9	53	9.8%	10	45	8.3%	10
7	流通食品の残留農薬などの安全性に関する検査結果	72	13.7%	7	80	15.3%	7	95	17.6%	**4**	75	13.9%	**5**
8	食中毒事件や法の基準に合わない（違反）食品の発生情報	115	21.9%	**3**	99	18.9%	6	70	13.0%	8	68	12.6%	7
9	その他	2	0.4%	11	7	1.3%	11	1	0.2%	11	1	0.2%	11
10	県が現状で行っている情報発信で十分だと思う	58	11.1%	10	54	10.3%	10	77	14.3%	6	77	14.3%	**4**
11	特になし	107	20.4%	**4**	127	24.2%	**3**	181	33.5%	**1**	234	43.3%	**1**
	回答者数	524			524			540			540		

県内



首都圏



問５　新潟県では、食の安全に関する情報の発信に取り組んでいますが、あなたが新潟県から特に発信してほしい内容はどれですか。（3つまで）

「9 その他」の回答内容（複数回答があったもの）

内容	回答数
農薬に関すること	2
海外で生産・加工された食品に関すること	2

県内では「食品添加物の安全性」と回答した割合が最も高く27.5%（前年度比－4.4ポイント）であった。

首都圏では「特になし」と回答した割合が最も高く43.3%（前年度比＋9.8ポイント）であった。

男女別（R6年度）

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	食中毒	**28.9%**	22.1%	13.9%	12.7%
2	食品表示	19.2%	19.0%	12.8%	10.5%
3	残留農薬	18.0%	20.5%	16.8%	14.2%
4	食品添加物	25.9%	**29.1%**	13.6%	18.4%
5	放射性物質	12.0%	11.2%	8.8%	9.0%
6	監視指導結果	13.9%	8.9%	8.1%	8.6%
7	食品検査結果	11.7%	19.0%	10.3%	17.6%
8	違反情報	18.0%	19.8%	10.6%	14.6%
9	その他	1.1%	1.6%	0.0%	0.4%
10	十分情報発信	10.2%	10.5%	13.9%	14.6%
11	特になし	24.4%	24.0%	**47.3%**	**39.3%**

県内男性では「食中毒の種類や予防法」と回答した割合が最も高く28.9%、県内女性では「食品添加物の安全性」と回答した割合が最も高く29.1%であった。

首都圏でも男女ともに「特になし」と回答した割合が最も高く、男性で47.3%、女性で39.3%であった。

問５　新潟県では、食の安全に関する情報の発信に取り組んでいますが、あなたが新潟県から特に発信してほしい内容はどれですか。（3つまで）

年代別（R6年度）

県内

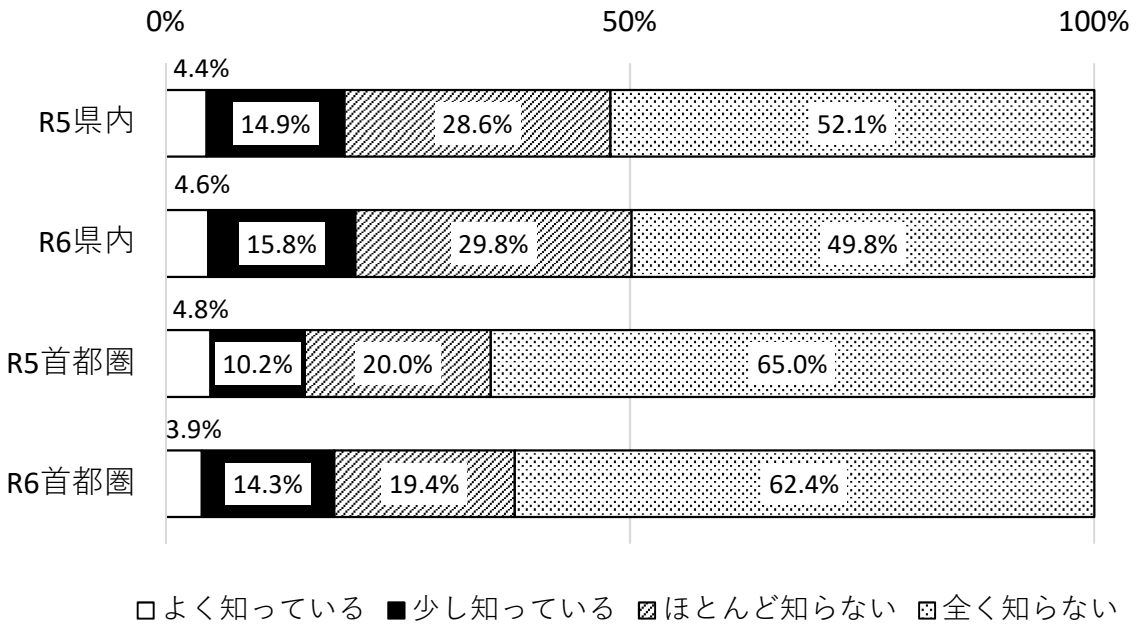
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	食中毒	**32.4%**	**26.8%**	**25.2%**	27.1%	20.0%
2	食品表示	20.3%	24.7%	18.9%	16.8%	16.3%
3	残留農薬	23.0%	10.3%	22.5%	15.0%	24.4%
4	食品添加物	**32.4%**	19.6%	23.4%	**29.0%**	**32.6%**
5	放射性物質	12.2%	12.4%	8.1%	15.0%	11.1%
6	監視指導結果	10.8%	11.3%	14.4%	10.3%	10.4%
7	食品検査結果	6.8%	9.3%	14.4%	16.8%	23.7%
8	違反情報	14.9%	13.4%	18.9%	23.4%	21.5%
9	その他	0.0%	2.1%	0.9%	0.0%	3.0%
10	十分情報発信	8.1%	13.4%	18.9%	7.5%	4.4%
11	特になし	24.3%	**26.8%**	15.3%	25.2%	28.9%

首都圏

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	食中毒	16.3%	18.9%	10.7%	12.1%	9.3%
2	食品表示	13.0%	12.6%	13.7%	8.1%	10.3%
3	残留農薬	13.0%	13.5%	14.5%	18.2%	18.7%
4	食品添加物	10.9%	18.0%	16.8%	15.2%	17.8%
5	放射性物質	5.4%	8.1%	14.5%	6.1%	8.4%
6	監視指導結果	6.5%	4.5%	12.2%	10.1%	7.5%
7	食品検査結果	6.5%	11.7%	19.1%	17.2%	13.1%
8	違反情報	8.7%	18.0%	16.8%	11.1%	6.5%
9	その他	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
10	十分情報発信	10.9%	12.6%	11.5%	14.1%	22.4%
11	特になし	**52.2%**	**40.5%**	**39.7%**	**46.5%**	**40.2%**

問６　新潟県では、食品の製造業者、飲食業者、販売業者などの食品関連事業者に対し、ＨＡＣＣＰ（ハサップ）による衛生管理の普及を推進するため、ＨＡＣＣＰに対する消費者の認知度向上に取り組んでいます。あなたは、食品の衛生管理手法であるＨＡＣＣＰを知っていますか。（ひとつだけ）

		県内						首都圏					
		Ｒ５年度			Ｒ６年度			Ｒ５年度			Ｒ６年度		
		件数	%		件数	%		件数	%		件数	%	
1	よく知っている（HACCPは内容も含めてよく知っている）	23	4.4%	19.3%	24	4.6%	20.4%	26	4.8%	15.0%	21	3.9%	18.2%
2	少し知っている（HACCPが食品に関係していることは知っている）	78	14.9%		83	15.8%		55	10.2%		77	14.3%	
3	ほとんど知らない（HACCPという言葉は見聞きしたことがある）	150	28.6%	80.7%	156	29.8%	79.6%	108	20.0%	85.0%	105	19.4%	81.8%
4	全く知らない（HACCPという言葉も内容も知らなかった）	273	52.1%		261	49.8%		351	65.0%		337	62.4%	
	回答者数	524			524			540			540		



県内における「よく知っている」又は「少し知っている」と回答した割合の合計は20.4%（前年度比＋1.1ポイント）であった。

首都圏における「よく知っている」又は「少し知っている」と回答した割合の合計は18.2%（前年度比＋3.2ポイント）であった。

男女別（R6年度）

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	よく知っている （HACCPは内容も含めてよく知っている）	3.0%	6.2%	5.5%	2.2%
2	少し知っている （HACCPが食品に関係していることは知っている）	18.8%	12.8%	18.7%	9.7%
3	ほとんど知らない （HACCPという言葉は見聞きしたことがある）	30.5%	29.1%	17.9%	21.0%
4	全く知らない （HACCPという言葉も内容も知らなかった）	**47.7%**	**51.9%**	**57.9%**	**67.0%**

県内男女別における「よく知っている」又は「少し知っている」と回答した割合の合計は、男性で21.8%、女性で19.0%であった。

首都圏男女別における「よく知っている」又は「少し知っている」と回答した割合の合計は、男性で24.2%、女性で11.9%であった。

年代別（R6年度）

県内

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	よく知っている （HACCPは内容も含めてよく知っている）	9.5%	4.1%	5.4%	2.8%	3.0%
2	少し知っている （HACCPが食品に関係していることは知っている）	18.9%	15.5%	18.9%	13.1%	14.1%
3	ほとんど知らない （HACCPという言葉は見聞きしたことがある）	28.4%	20.6%	33.3%	30.8%	33.3%
4	全く知らない （HACCPという言葉も内容も知らなかった）	**43.2%**	**59.8%**	**42.3%**	**53.3%**	**49.6%**

首都圏

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	よく知っている （HACCPは内容も含めてよく知っている）	6.5%	3.6%	4.6%	1.0%	3.7%
2	少し知っている （HACCPが食品に関係していることは知っている）	19.6%	15.3%	13.0%	16.2%	8.4%
3	ほとんど知らない （HACCPという言葉は見聞きしたことがある）	10.9%	21.6%	21.4%	21.2%	20.6%
4	全く知らない （HACCPという言葉も内容も知らなかった）	**63.0%**	**59.5%**	**61.1%**	**61.6%**	**67.3%**

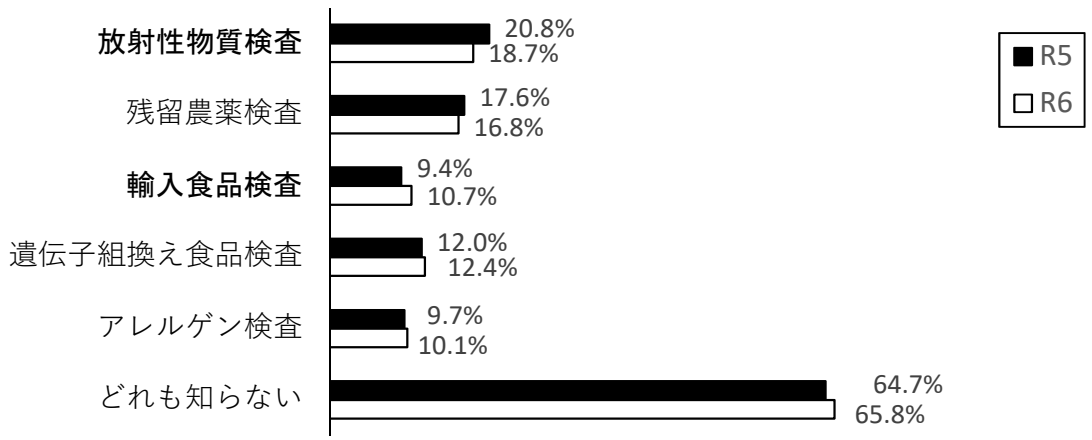
県内年代別において、「よく知っている」又は「少し知っている」と回答した割合の合計が最も高かったのは、20代で28.4%であった。

首都圏年代別において、「よく知っている」又は「少し知っている」と回答した割合の合計が最も高かったのは、20代で26.1%であった。

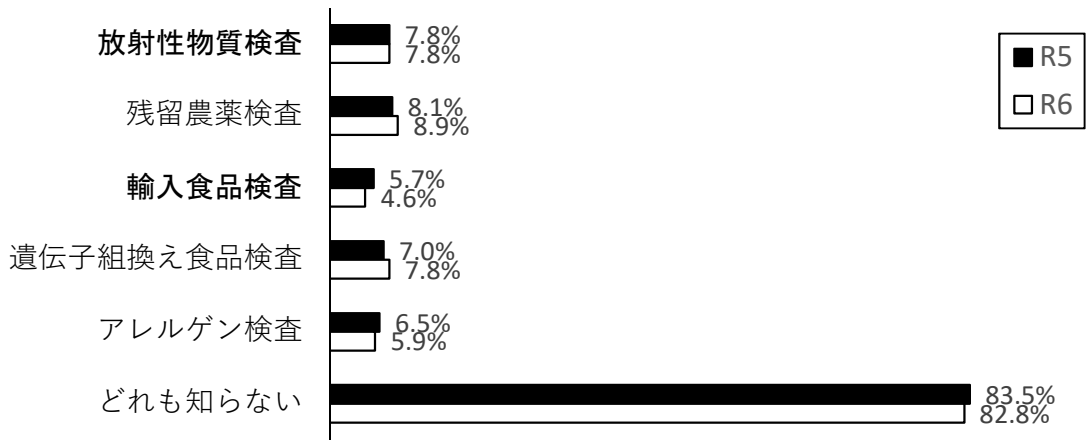
問７　新潟県では、様々な食品の検査を実施し、結果を公表しています。あなたは、新潟県が以下の食品検査を行っていることを知っていましたか。（いくつでも）

	県内						首都圏					
	Ｒ５年度			Ｒ６年度			Ｒ５年度			Ｒ６年度		
	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1 食品の放射性物質検査	109	20.8%	**2**	98	18.7%	**2**	42	7.8%	**3**	42	7.8%	**3**
2 農産物の残留農薬検査	92	17.6%	**3**	88	16.8%	**3**	44	8.1%	**2**	48	8.9%	**2**
3 輸入食品の食品添加物や細菌の検査	49	9.4%	6	56	10.7%	**5**	31	5.7%	6	25	4.6%	6
4 遺伝子組換え食品の検査	63	12.0%	**4**	65	12.4%	**4**	38	7.0%	**4**	42	7.8%	**3**
5 アレルゲンを含む食品の検査	51	9.7%	**5**	53	10.1%	6	35	6.5%	**5**	32	5.9%	**5**
6 どれも知らない	339	64.7%	**1**	345	65.8%	**1**	451	83.5%	**1**	447	82.8%	**1**
回答者数	524			524			540			540		

県内



首都圏



県内では「どれも知らない」と回答した割合が最も高く65.8%（前年度比＋1.1ポイント）であった。

首都圏でも「どれも知らない」と回答した割合が最も高く82.8%（前年度比－0.7ポイント）であった。

問７　新潟県では、様々な食品の検査を実施し、結果を公表しています。あなたは、新潟県が以下の食品検査を行っていることを知っていましたか。（いくつでも）

男女別（R6年度）

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	放射性物質検査	17.3%	20.2%	9.9%	5.6%
2	残留農薬検査	16.9%	16.7%	11.4%	6.4%
3	輸入食品検査	10.9%	10.5%	5.5%	3.7%
4	遺伝子組換え食品検査	12.4%	12.4%	7.7%	7.9%
5	アレルゲン検査	10.2%	10.1%	5.5%	6.4%
6	どれも知らない	**64.3%**	**67.4%**	**81.0%**	**84.6%**

年代別（R6年度）

県内

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	放射性物質検査	20.3%	9.3%	18.9%	22.4%	21.5%
2	残留農薬検査	13.5%	11.3%	21.6%	19.6%	16.3%
3	輸入食品検査	16.2%	5.2%	14.4%	10.3%	8.9%
4	遺伝子組換え食品検査	18.9%	11.3%	14.4%	13.1%	7.4%
5	アレルゲン検査	20.3%	8.2%	11.7%	6.5%	7.4%
6	どれも知らない	**54.1%**	**71.1%**	**63.1%**	**66.4%**	**70.4%**

首都圏

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	放射性物質検査	8.7%	9.9%	8.4%	4.0%	7.5%
2	残留農薬検査	9.8%	9.0%	9.2%	7.1%	9.3%
3	輸入食品検査	4.3%	7.2%	3.1%	2.0%	6.5%
4	遺伝子組換え食品検査	10.9%	8.1%	5.3%	6.1%	9.3%
5	アレルゲン検査	4.3%	7.2%	6.9%	2.0%	8.4%
6	どれも知らない	**77.2%**	**79.3%**	**83.2%**	**88.9%**	**85.0%**